



2012 年 1 月 31 日発行



今回の紙面から（ページと内容）

1. 会長挨拶
2. 第5回国際春季フォーラムのご案内
第30回大会のご案内
(Student) Workshop の企画募集
理事会・評議員会より
3. 編集委員会より
4. 大会運営委員会より
5. 広報委員会より
学会賞委員会より
6. 日本英語学会2011年度収支中間報告書
7. 日本英語学会賞と日本英語学会新人賞の募集
事務局より

会 長 挨 拶

- 30周年記念大会に向けて -

会長 稲田 俊明

昨年は未曾有の大震災と原発事故により日本全体が多大な影響を被りました。被災地の復興支援が一日も早く実効あるものとして成し遂げられ、この難局を乗り越えて一歩でも前進できることを希求してやみません。

日本英語学会は、本年創立30周年を迎えます。学会を取り巻く困難な状況の下で、震災後の難局を乗り越えて、秋の記念事業を成功させるために、創立30周年記念事業WG、大会運営委員会、学会事務局など関係者一同奮闘しています。会員の皆様にも、記念大会の開催に向けてご協力をお願い致します。

昨年11月には、第29回年次大会が新潟大学五十嵐キャンパスで開催されましたが、予想を上回る多数の参加者があり盛会裏に終了しました。震災後の難局のなかで献身的にご準備いただいた新潟大学の秋孝道先生をはじめ開催校委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。大会開催に当たっては、事前申請通りの相当額のコンベンション開催助成金を新潟県と新潟市よりいただきました。出席者全員の住所等を含む煩雑な申請書類を作成してい

ただいた開催校と事務局のご尽力に改めて感謝致します。

昨年度から顕彰制度の見直しを行ってまいりましたが、新たに整備された学会賞3部門（学会賞（著書）、学会賞（論文）、新人賞）で受賞者があり、第29回大会の総会において、各部門の受賞者に賞状と副賞が授与されました。

本年4月には、甲南大学で春季フォーラムを開催しますが、その折に韓国英語学会（ELSOK）会長と関係者を招聘して交流協定の調印をします。長谷川理事を中心にして、理事会、春季フォーラム実行委員会で（実質的で経済負担の軽い）相互交流と連携の在り方を検討してきましたが、本年の春季フォーラムから検討の結果が実を結ぶこととなります。会員の皆様も、相互交流の実質化と国際化推進のために、奮って ELSOK 機関誌への投稿などのご協力をお願い致します。

創立30周年記念大会開催を契機に、学会の財政再建策を検討する時期に来ていると思われます。記念大会では、3人の講師を海外から招聘する費用など必要経費の一部を特別会計から支出させていただきますが、学会の将来構想を考えると、財政上の問題は焦眉の急とは言えないまでも無視できない状況にあります。今後、理事会等でも再建策の検討を始めたいと考えています。

元会長の宇賀治正朋先生が、昨年の年次大会直前に逝去されました。宇賀治先生には、毎回のようにな次大会にご出席いただき激励の言葉を頂戴していました。加えて、学会支援機構の問題に絡んで本学会も一時的に財政危機に陥った時期に、多額のご寄附を頂戴しました。昨年の学会開催地の新潟市近郊（現在の三条市）のご出身でもあり、大会当日にお元気な姿を拝見し、懇親会で一昨年のように初期近代英語からの具体例を交えた貴重なお話をまた伺えることを心待ちにしておりましたが、訃報に接して残念でなりません。30周年記念大会を成功させて、これまでの先生の学会へのご支援にお答えしたいと思います。

最後になりますが、会員の皆様の研究活動の益々の進展を祈念し、学会の諸活動と30周年記念大会へのご支援をお願い申し上げます。

第5回国際春季フォーラムのご案内

第5回国際春季フォーラムは次の通り開催されます。

日時：2012年4月21日(土)・22日(日)

場所：甲南大学

(〒658-8501兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1)

詳細については、同封のプログラムをご覧ください。

第30回大会のご案内

第30回大会は記念大会として、次の通り開催される予定です。

日時：2012年11月10日(土)・11日(日)

場所：慶應義塾大学（三田キャンパス）

(〒108-8345 東京都港区三田2-15-45)

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募締め切りは4月1日(日) 24時(必着)です。応募の際は、学会ホームページ「研究発表応募規定」欄 (<http://elsj.kaitakusha.co.jp/kenkyuha.html>) 掲載の同規定をご確認いただき、各事項を遵守下さいますようお願いいたします。そのうえで、同規定指定のアドレス宛に、発表内容と研究発表応募用紙 (excel ファイル) を締切り日厳守にて送信ください。

第30回大会においても「親と子の部屋」を設置いたします。詳細は、今後学会ホームページや7月発行のニューズレターでご案内いたします。

(Student) Workshop の企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマについての発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ／スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第30回大会では、11月10日(土)の午前9時30分から11時45分までをワークショップ／スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営をご希望の方は、学会ホームページ「秋季大会ワークショップ」欄 (http://elsj.kaitakusha.co.jp/elsj_workshop.html) 掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、3月31日(土) 24時まで必着にて、同案内指定のアドレ

ス宛に企画書とワークショップ応募用紙 (excel ファイル) を送信ください。

理事会・評議員会より

○ 会計

2011年11月11日に開催されました第63回理事会と第29回評議員会において、日本英語学会2011年度収支中間報告が承認されました。「日本英語学会2011年度収支中間報告書」は、6-7ページに掲載されておりますので、ご覧ください。

○ 役員の異動

・理事 (退任)

任期満了に伴い、2012年3月31日付で以下の5名の理事が退任されます。

伊藤たかね氏 (東京大学)、岡田伸夫氏 (関西外国語大学)、中島平三氏 (学習院大学)、福地肇氏 (東北大学)、米山三明氏 (成蹊大学)

・理事 (新任)

郵送による理事選挙が行われ、柳 さよ氏 (委員長) と山崎和夫氏の選挙管理委員による開票結果に基づき、以下の方々が新理事に就任されます。

今西典子氏 (東京大学)、大庭幸男氏 (大阪大学)、金子義明氏 (東北大学)、高見健一氏 (学習院大学)、外池滋生氏 (青山学院大学)

任期は、2012年4月1日から2016年3月31日までの2期4年間です。なお、池内正幸氏 (津田塾大学)、大津由紀雄氏 (慶應義塾大学)、澤田治美氏 (関西外国語大学)、長谷川信子氏 (神田外国語大学)、廣瀬幸生氏 (筑波大学)、山梨正明氏 (京都大学) は、理事2期目となります。

・編集委員長 (退任)

外池滋生氏 (青山学院大学) が2011年11月30日付で退任されました。

・編集委員長 (新任)

伊藤たかね氏 (東京大学) が2011年9月1日付で編集委員長に就任されました。任期は2013年11月30日までです。

・大会運営委員長 (退任)

菊地 朗氏 (東北大学) が2011年12月14日付で退任されました。

・大会運営委員長 (新任)

大堀壽夫氏 (東京大学) が2011年12月15日付で大会運営委員長に就任されました。任期は1年間

です。

○ 日本英語学会創立30周年記念事業ワーキンググループについて

理事会メール会議により、ワーキンググループの任期と構成員を以下のようにすることが承認されました。

任期：2010年12月1日～2012年11月30日

構成員：米山三明氏（代表）（理事〔2012年4月1日以降は理事経験者〕）、大庭幸男氏（理事経験者〔2012年4月1日以降は理事〕）、福地 肇氏（理事〔2012年4月1日以降は理事経験者〕）、大堀 壽夫氏（2011年10月16日任期開始、2011年12月15日付けで大会運営委員長）、菊地 朗氏（2011年12月14日まで大会運営委員長、2011年12月15日以降は大会運営委員長経験者）、藤田耕司氏（大会運営委員）、西岡宣明氏（事務局長）

また、ワーキンググループの提案に基づき、第30回記念大会の招聘講師として、Cedric Boeckx氏（ICREA/University of Barcelona）、William Croft氏（University of New Mexico）、Lyle Jenkins氏（Biolinguistics Institute）の3氏をお招きすることになりました。

○ ELSOK との交流について

韓国英語学会（ELSOK）と交流を深める合意書を交わすことが、2011年11月11日開催の第63回理事会において決定され、2012年4月20日に神戸にて調印式を行う予定です。主な合意内容は、相互の大会への講演者の招聘、学会誌の交換、相互の大会での発表応募ならびに学会誌への投稿の権利を両学会の会員に認めることを含みます。詳細は別途お知らせいたします。第5回国際春季フォーラムには ELSOK から Jong-Bok Kim 氏（Kyung Hee University）と Pil-Hwan Lee 氏（Keimyung University）をお招きいたします。同封のプログラムをご覧ください。

○ 訃報

本学会の理事、評議員、および第3代会長をお務めになられました宇賀治正朋先生が2011年10月22日に逝去されました。また、評議員の永浜雅章先生が、2011年9月22日に逝去されました。日本英語学会へのご貢献に感謝しますとともにご冥福をお祈りいたします。

編集委員会より

◇ 第15期編集委員会（EL29巻・30巻編集担当）の運営について

第15期編集委員会は、2011年8月に第14期編集委員会副委員長を務めた伊藤たかね氏（東京大学）を2011年9月1日から2013年11月30日の任期で第15期編集委員会委員長に選出しました。任期開始日の2011年9月1日から第14期編集委員長が退任する11月30日までの期間を第14期と第15期の編集委員長の引継ぎ移行期間とし、両委員長が協力して EL の編集にあたりました。

2011年11月11日に開催した第69回編集委員会で、加賀信広氏（筑波大学）を2011年12月1日から2013年8月31日の任期で第15期編集委員会副委員長に選出しました。

◇ English Linguistics 第28巻2号（2011年秋号）の査読結果および刊行予定について

震災の関係で一月遅れの特別日程で編集しておりました28巻2号に投稿された論文の審査結果は以下の表の通りです。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	4	1	1	0	2
BA	3	1	0	0	2
N&D	1	0	1	0	0
RA	0	0	0	0	0
Review	10	6	2	1	1
4ヶ月書き直し					
AR	0	0	0	0	0
BA	0	0	0	1	0
合計	18	8	4	2	5

表には、一般論文（Article 4編（Syntax 3, Syntax & Second Language Acquisition 1）、Brief Article 3編（Semantics 1, Historical Linguistics 2）、Notes & Discussion 1編（Syntax 1）の計8編）に加え、懲慥による Review および Review Article も含められています。なお、「審査中」とある AR と BA の4編（4ヶ月書き直し次号送り分）および Review の1編（震災対応により、29巻1号の編集日程に回されたもの）の最終結果は、次項の EL29巻1号の審査結果に反映されています。

加えて今号には、特別企画2010の事前審査で採用となった「特集テーマ：Linear Information across Grammar」のもとで執筆・一括投稿された

3編の論文と Introduction が掲載される予定です。
EL28巻 2 号の会員の皆様への送付は、本年 2 月
中旬頃の予定です。

◇ *English Linguistics* 第29巻 1 号 (2012年春号)
の応募論文の査読結果について

2011年 9 月20日締め切りで投稿された一般論文
の総数は 8 編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、
Article 6 編 (Syntax 2, Semantics 1, Pragmatics 1,
Semantics / Cognitive Linguistics 1, Historical Lin-
guistics 1)、Brief Article 1 編 (Semantics 1)、N&
D 1 編 (Semantics/Cognitive Linguistics 1) でした。

以下の表は、懲憑による Review 11編と EL 28
巻 2 号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定さ
れ、今号に再投稿された論文4編も含めた EL 29
巻 1 号 (春号) の審査結果です。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	6	0	4	0	2
BA	1	0	0	0	1
N&D	1	1	0	0	0
RA	0	0	0	0	0
Review	11	9*(+1)	1	1	0
4ヶ月書き直し					
AR	2	1	1	0	0
BA	2	1	1	0	0
合計	23	12*(+1)	7	1	3

(採用欄の*(+1)は、EL28.2に投稿されたもので
あるが、震災対応により今号の編集日程で審査さ
れたもの。)

◇ *English Linguistics* 第29巻 2 号 (2012年秋号)
への投稿について

2012年12月発行の EL 29巻 2 号 (秋号) の原稿
締切は、2012年 4 月 1 日 (日) 24 時 (必着) です。

応募される方は、学会ホームページに記載され
ている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読
され、最新版の規定に則って作成してネイティブ・
チェックを受けた原稿をご投稿下さいますよう、
お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2011：特集テーマによる一括投稿
論文」の事前審査への応募について

「特別企画2011：特集テーマによる一括投稿論
文」の公募は2011年12月15日に締め切れ、事前
審査に対して 1 件の応募があり、現在審査中です。

「特別企画2012：特集テーマによる一括投稿論文」
の公募については、2012年度初めに、学会ホーム
ページで案内を行う予定です。

◇ 2011年度 EL 研究奨励賞について

EL27巻より、*English Linguistics* に掲載された
論文 (AR と BA) で優れたものに「*English
Linguistics* 研究奨励賞」を授与することが決定さ
れましたが、2011年度は、2010年 9 月20日締切の
EL28巻 1 号 (2011年 6 月刊行済み) と 2011年 4 月
30日締切の EL28巻 2 号に投稿されてすでに採用
となった AR 3 編、BA 2 編あわせて 5 編につい
て、先ず、分野別 1 次審査を行いました。審査対
象となった論文の分野は、概略的に syntax 2編、
semantics/syntax 1編、historical linguistics 2編で
す。1次審査結果を踏まえ、EL 研究奨励賞候補論
文を 3 編に絞込み、現在「最終選考委員会」で、
最終選考中です。最終選考で決定された2011年度
「EL 研究奨励賞」は、2012年 3 月中に受賞者にお
知らせします。受賞論文の執筆者は、EL に投稿
した時の年齢 (あるいは研究歴) に即して、2012
年度の日本英語学会賞 (論文) と日本英語学会新人
賞への応募の有資格者となります。

大会運営委員会より

□ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次の通り
となりました。

(委員長) 大堀壽夫氏

(副委員長) 大名 力氏

(委員) 縄田裕幸氏、上田由紀子氏、奥野忠徳氏
(国際春季フォーラム実行委員長)、片岡邦好氏、
菅原真理子氏、新沼史和氏、中西公子氏、島 越
郎氏、藤田耕司氏 [以上留任]

村田和代氏、松本マスミ氏、丸田忠雄氏、本多
啓氏、土橋善仁氏 [以上新任]

□ 第30回大会シンポジウム企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は『え〜ご
がく』57号でお知らせいたします。

□ JELS 29について

JELS 29は、現在大会運営委員会にて編集集中
です。今号より、国際春季フォーラムでの発表も掲

載されることになりました。全会員に3月中旬にお届けする予定です。

□ 第29回大会の報告

第29回大会は、2011年11月12日(土)・13日(日)の両日、新潟大学五十嵐キャンパスにて開催されました。本大会では、5つのシンポジウム、33の研究発表、2つのスチューデント・ワークショップが行われました。大会2日間で355名の参加者があり、盛会裏に終えることができました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では17社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方、大会運営委員の先生方、参加された会員諸氏のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきました。まことにありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

広報委員会より

◇ English Linguistics のバックナンバーのアーカイブ化について

現在、*English Linguistics* は、25巻1号(2008)以降のアーカイブ化が進行中です。それ以前のバックナンバーは、Journal@rchive (http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jn1top_ja.php?cdjournal=elsj1984)にて公開しております。どうぞご利用ください。なお、公開対象誌は刊行後4年を経過したものです。

◇ 学会ホームページのサーバー移行について

学会ホームページのサーバーが昨年11月21日より開拓社 (<http://elsj.kaitakusha.co.jp/>) に移行しましたのでお知らせいたします。

学会賞委員会より

○ 2011年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞は昨年度3部門体制として新たに整備され、2010年7月発行の『え〜ごがく』53号で応募要項等を含めその概要を会員の皆様にお知らせしました。今年度の日本英語学会賞の選考は、この新たな体制の下で2011年度学会賞委員会

(今西典子(委員長)、廣瀬幸夫(副委員長)、外池滋生(第14期編集委員会委員長)、伊藤たかね(第14期編集委員会副委員長))と英語学会事務局(西岡宣明(事務局長))が運営責任を負って、以下のように行われました。2011年4月1日から5月31日の応募期間内に応募申請された著書および2010年度EL研究奨励賞受賞論文について、2011年6月初旬から10月中旬の審査期間内に、学会賞(著書)、学会賞(論文)、新人賞の各選考委員会において慎重な審議が行われ、受賞著書および受賞論文が決定されました。選考結果は2011年11月12日(土)に開催された日本英語学会第29回大会の総会において報告され、2011年度の学会賞(著書)、学会賞(論文)、新人賞がそれぞれ各部門の受賞者に授与されました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名はEL29巻1号に掲載される学会賞委員会報告に記載され公表されます。

以下は、学会賞(著書)、学会賞(論文)、新人賞の選考報告および各賞の受賞著書・受賞論文の概要と評価です。

・2011年度学会賞(著書)には、専門領域が異なる2件の著書が応募されました。各応募著書について、それぞれ5名の当該専門領域の1次審査委員が査読を行いました。その結果、2件とも1次選考を通過となり、規定により5名からなる最終選考委員会が設けられ、それぞれの著書についてさらに慎重に審議され、2011年度学会賞(著書)は山田英二氏(福岡大学)の著書 *Subsidiary Stresses in English* に授与されることになりました。
[受賞著書の概要と評価]

Subsidiary Stresses in English は、現代英語の副次語強勢について説明を試みた研究である。16個の「位置関数」によって構成される副次強勢規則と副次強勢を算出し表記する方法から成る著者独自の位置関数理論(Positional Function Theory)を提示し、「韻律理論」や「最適性理論」という従来の主な音韻理論では十分に説明がなされえなかった英語の語レベルの副次強勢配置を体系的に過不足なく説明することができることを示した。現代英語の副次語強勢について各種発音辞典の記述を基盤として言語事実を詳細に調査し、説明対象となる事実の整理と確定を丹念に行って、これまでの生成音韻論による英語語強勢研究において提案された規則または制約の不備を実証し、独創性の高い新たな枠組みを提案してその妥当性を綿密に論証している点が高く評価された。位置関数

理論については、今後、「英語」以外の言語や「副次強勢の記述」以外における適用可能性を明らかにし、弁別機能のある主要強勢と関連付けて副次強勢の配置と機能を示すことができるならば、より説得力が高くなるであろうという意見も出された。

・2011年度学会賞(論文)には、2010年度 *EL* 研究奨励賞受賞論文1件が応募され、規定により5名の最終選考委員により査読が行なわれました。2011年度学会賞委員会は最終選考委員から提出された総合評価と講評を判定基準に基づきとりまとめました。その結果、2011年度学会賞(論文)は葛西宏信氏(北九州市立大学)の *EL*27巻2号に掲載された論文“Parasitic Gaps under Multiple Dominance”に授与されることになりました。

[受賞論文の概要と評価]

“Parasitic Gaps under Multiple Dominance”は、英語の寄生空所(PG)構文について従来明らかにされている特徴を考察し、ミニマリスト・プログラム研究で提示されている付加詞節(島)内部から主節への sideward movement、多重支配(multiple dominance)構造、項要素も含めた late merge などの操作や仕組みを縦横に駆使して PG 構文の派生について新たな分析を提示した研究である。PG 構文にみられるさまざまな特徴、特に、島の効果と PG の範疇に関する制約との連関や付加詞句内の PG における再構築現象の可否に対して、経験的根拠を着実に積み上げて明快な論証を展開し原理的説明を試みている点が高く評価された。Parallel Merge/multiple dominance 構造による派生のメカニズムについては、今後、現行の理論との整合性について吟味し、さらにその理論的意義や波及効果について体系的に考察を深める必要があろうという意見も出された。

・2011年度新人賞には、2010年度 *EL* 研究奨励賞受賞論文1件が応募され、規定により5名の最終選考委員により査読が行なわれました。2011年度学会賞委員会は最終選考委員から提出された総合評価と講評を判定基準に基づきとりまとめました。その結果、2011年度新人賞は前田雅子氏(九州大学大学院・日本学術振興会特別研究員 DC2)の *EL*27巻2号に掲載された論文“The Criterial Freezing Effect and Split A'-Movement”に授与されることになりました。

[受賞論文の概要と評価]

“The Criterial Freezing Effect and Split A'-Movement”

は、CP 領域での焦点化要素、話題化要素、wh 句の移動現象に係わる A バー移動の相互作用に着目し、sub-extraction にみられるイタリア語と英語の相違に対して原理的な説明を与えることを試みた研究である。文構造および局所性に関する Rizzi の一連の提案を踏まえてさらなる精緻化と拡張を行い、分離 A バー移動という新たな分析を提案し、CP 領域現象だけでなく vP 領域現象として there 構文における DP と DP 内部要素の wh 移動の可否における対比など広範囲の経験的事実を包括的かつ自然な形で説明することに成功しており、移動研究に対して多大な理論的貢献をなしている点が高く評価された。言語間での素性や移動先の違いについて、言語事実に照らして想定されているが、今後、どこまでの「相違」が許されるのか、なぜ、そうした相違があるのかなどについて体系的・理論的考察が必要であろうという講評も出された。

日本英語学会2011年度収支中間報告書

2011年11月1日
日本英語学会会長
稲田俊明

収入	¥12,518,218
支出	¥4,956,435
	¥7,561,783

【収入内訳】

2010年度より繰越	¥10,839,417
会費	¥669,160
大会参加費(春)	¥202,000
科研費	¥800,000
JELS 購入代金	¥6,850
利息	¥791
雑収入	¥0
寄付	¥0
合計①	¥12,518,218

【支出内訳】

EL 刊行費	¥1,057,151
NL 等印刷費	¥68,481
業務委託費関係	¥1,274,130
事務委託費	¥599,630

発送費	¥674,500
大会関係費	¥584,491
印刷費	¥62,475
運営費	¥472,016
謝金	¥50,000
JELS 関係費	¥0
委員会関係費	¥764,933
旅費	¥648,535
会議費	¥116,398
事務局関係費	¥1,107,249
賃貸料	¥0
人件費	¥883,045
通信費	¥107,959
消耗品費	¥0
謝金	¥0
交通費	¥116,245
資料コピー費	¥0
その他	¥0
学会各賞費	¥0
協賛学会への助成	¥100,000
特別事業費への繰り入れ	¥0
予備費	¥0
合計②	¥4,956,435

日本英語学会賞と日本英語学会新人賞 の募集

2011年度と同様に2012年度の日本英語学会賞(著書)、日本英語学会賞(論文)、日本英語学会新人賞の応募方法と応募期間は以下のとおりです。

・応募方法：必要な書類を日本英語学会ホームページよりダウンロードし、必要事項を記入のうえ下記の指定メールアドレスに送信してください。

日本英語学会賞(著書)：award-b-obo@kaitakusha.co.jp

日本英語学会賞(論文)および日本英語学会新人賞：award-a-obo@kaitakusha.co.jp

・応募期間：2012年4月1日より5月31日まで
・その他：日本英語学会のホームページにあります応募規定を熟読のうえご応募ください。不明の点は事務局あて(elsj-info@kaitakusha.co.jp)Eメールにてご連絡ください。

事務局より

○ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られました振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。

○ 学生会員登録について

2012年度に学生会員として登録(2011年度からの継続を含む)を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2012年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

・申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員
①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。

②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生。

・申告期間：2012年4月1日より4月25日(必着)

・申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付し、事務局宛(宛先は奥付参照)「学生会員登録希望」とかならず朱書きのうえ、郵送してください。

(1) 在学する学校の発行する在学証明書

(2) 学生証のコピー

(3) 進学する学校・課程の合格通知書のコピー

(4) (元)指導教員(所属明記)の署名(捺印)と証明の言葉

専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局(elsj-info@kaitakusha.co.jp)にご連絡ください。

○ ELへの論文投稿に関するお願い

ELに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております投稿規定をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「投稿論文のEL掲載までの手順案内(2009)」の

表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形で、連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信ください。

JELS や所属機関の working papers 等に掲載された研究（の一部）を発展させて EL に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3 人称表現をご使用ください。

○ EL 掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

EL に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、EL に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本英語学会事務局あて (elsj-info@kaitakusha.co.jp) お知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」に EL に掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局あてお知らせください。日本英語学会では、発行後 4 年以上経過した論文の登録をお認めしています。

○ JELS 掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS 掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL 掲載の論文と同様に、事前に事務局まで (elsj-info@kaitakusha.co.jp) お申し出ください。

JELS 掲載論文については、発行後 1 年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

○ EL 公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室で EL を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。EL がより多くの研究者に知られるだけでなく、本会の運営にも益するところがありますので、よろしく願いいたします。

○ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、EL への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡いたします。電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常 1 週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。

○ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡ください。連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

編集後記

今年度は東日本大震災による学会運営上の影響も懸念されましたが、皆さま方のご尽力、ご協力により無事業務を行うことができました。被災された方々の一日も早い復興を祈念しますとともに、あらためて御礼申し上げます。

稲田会長の 3 年目となる新年度には、合意書に基づく韓国英語学会 (ELSOK) との交流が開始する予定です。また、秋には 30 周年記念大会が行われます。気持ちをあらたに事務局一同微力ながら精一杯務めたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(西岡・増富・村尾・松元・廣江)

2012 年 1 月 31 日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 稲田 俊明

発行所 日本英語学会

<http://elsj.kaitakusha.co.jp/>

〒113-0023

東京都文京区向丘 1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900
